

遠
2378
10



山東京傳作

筭甚五郎
差櫛於六
長髯姿蛇杵



歌川國貞画



繪師國貞

像以女書

才の女子留

してかれ

世よとら

りのある

様お子のり

まきと山玉

様よ之本

け

京傳



水屋大晦日の夕ま



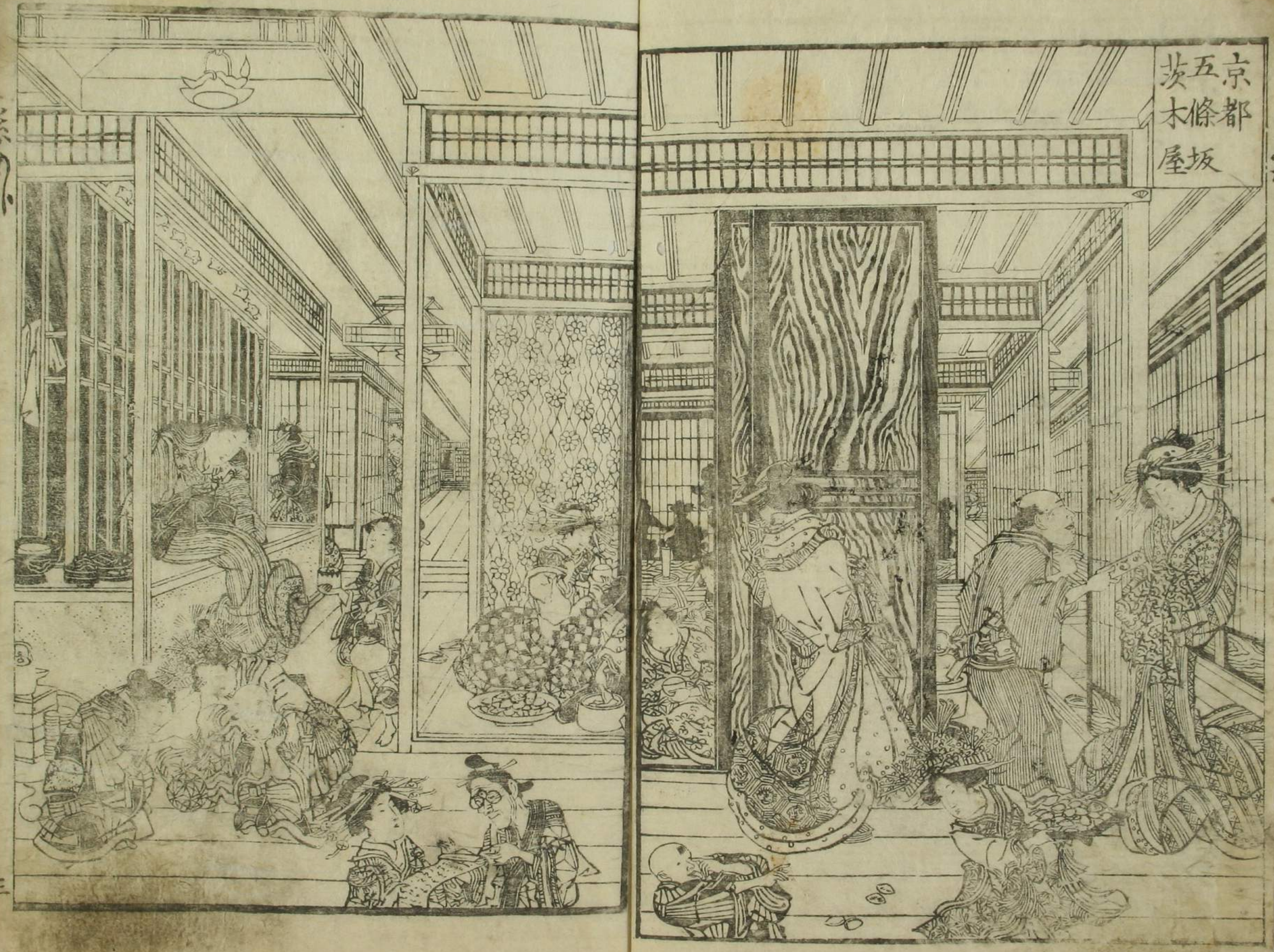
京都五条新坂をら



火の用心

長かり

京都
五條
木坂
屋



五

七

半七のついでにさうせむらふりあつたふり今のふり
 ゆめの市へまゐるやうに申すまゝに申すていへば
 市へまゐる女房ついでに申すていへば
 おめえのいふまゝならぬあれどあつて
 さあさうは私をまゐりしにちかあん
 うけつて私入さるゝとさういふ
 ていふつていふあつた
 とあつてでうけつた
 のついでにさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり



半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり

そのついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり



半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり
 半七のついでにさうせむらふりあつたふり
 こゝろはさうせむらふりあつたふり

長髮蛇柳前編中冊



井半七の... 蛇柳の... 長髮の... 前編の... 中冊の...

あつて... 蛇柳... 長髮... 前編... 中冊... 井半七...



井半七の... 蛇柳の... 長髮の... 前編の... 中冊の...

あつて... 蛇柳... 長髮... 前編... 中冊... 井半七...

たのしみ... 蛇柳... 長髮... 前編... 中冊... 井半七...



ついでに
あんなに
おどろか
したとて
いふは
なほ
さういふ
ことには
なほ
あはれ
なむ

あんなに
おどろか
したとて
いふは
なほ
さういふ
ことには
なほ
あはれ
なむ

本物の
おどろか
したとて
いふは
なほ
さういふ
ことには
なほ
あはれ
なむ

あんなに
おどろか
したとて
いふは
なほ
さういふ
ことには
なほ
あはれ
なむ



あんなに
おどろか
したとて
いふは
なほ
さういふ
ことには
なほ
あはれ
なむ

あんなに
おどろか
したとて
いふは
なほ
さういふ
ことには
なほ
あはれ
なむ

あんなに
おどろか
したとて
いふは
なほ
さういふ
ことには
なほ
あはれ
なむ

母は... (Right page top section)

母は... (Right page bottom section)

母は... (Left page top section)

母は... (Left page bottom section)

Vertical text on the left margin of the left page.

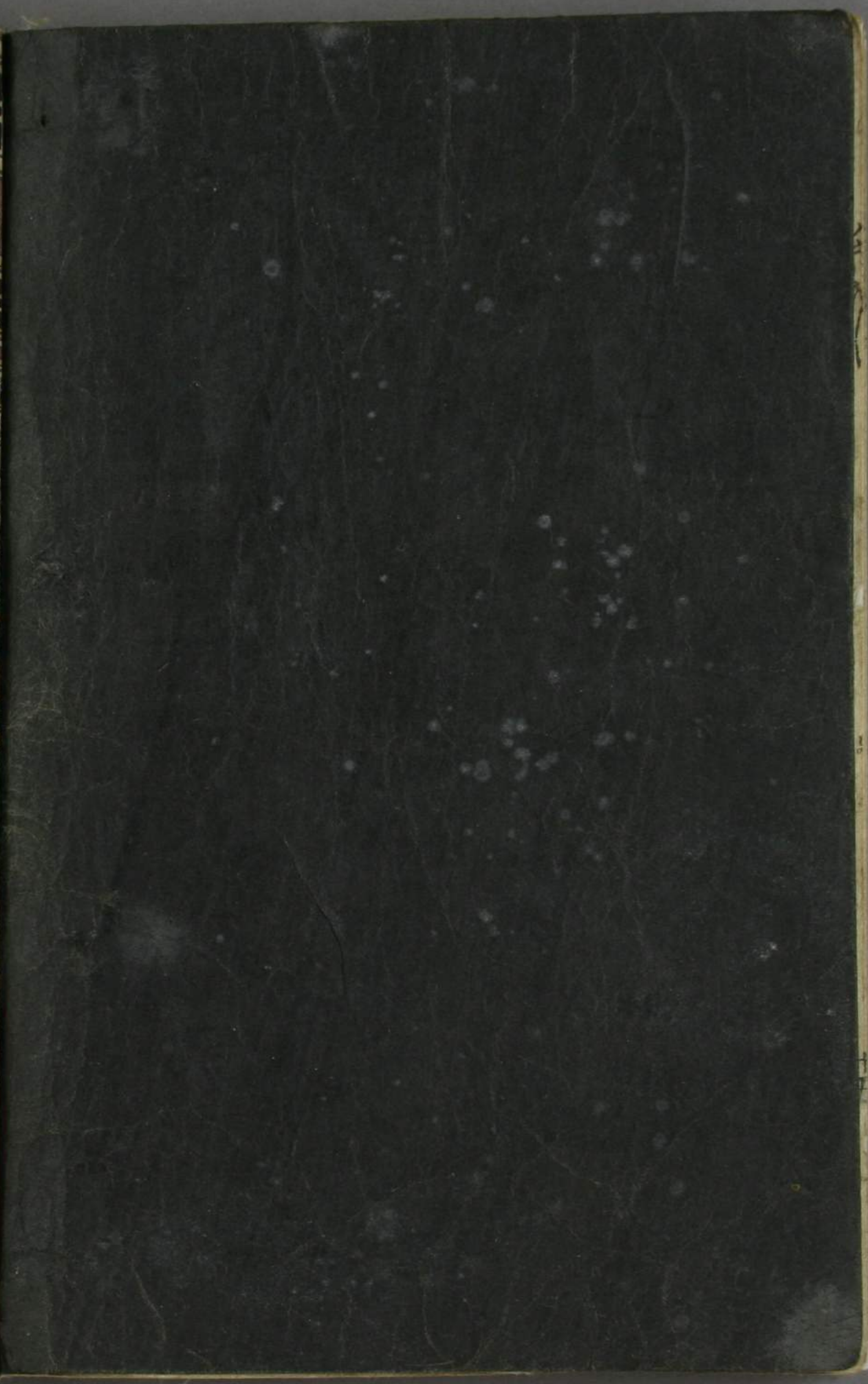
十五 (Page number 15)



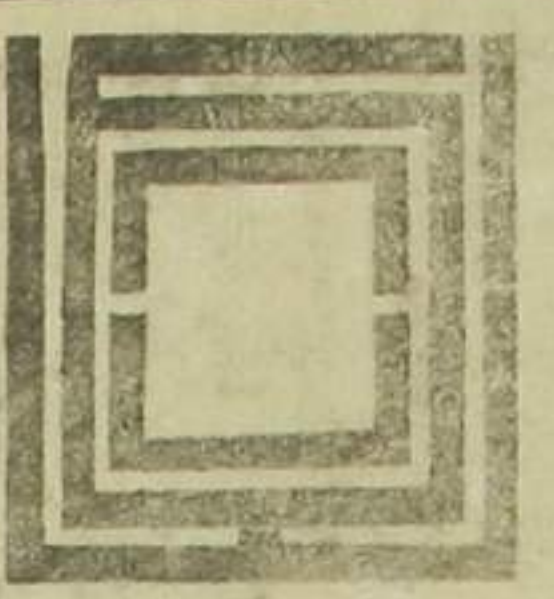
川源版

筭のふり
差櫛はあろ

姿の
舞

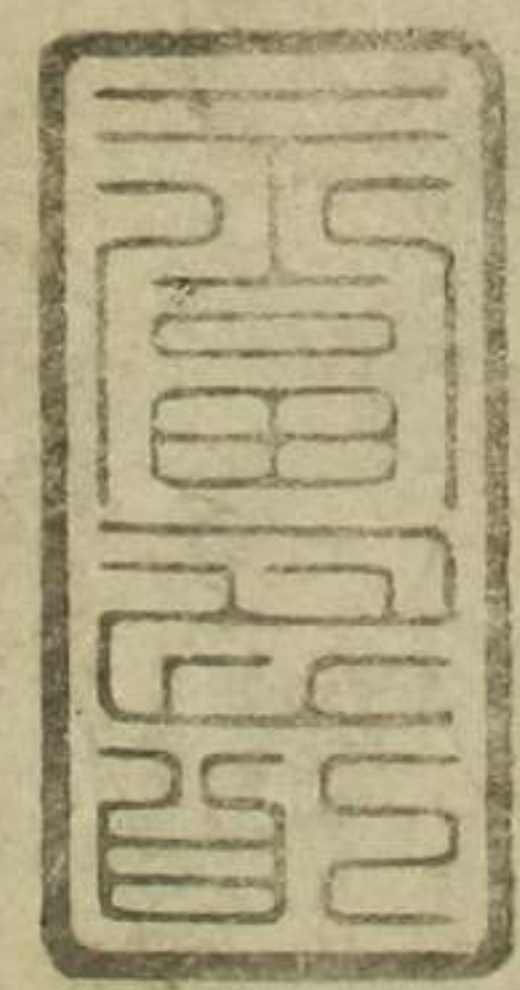


長髮 髮 姿 柳 後 編 上 冊



國貞画

京傳作



東永堂梓

長髮 下 編

申のさきいつちをよやうなまよごんあま
 ぞそれさうまうりふどにまうま
 まげんあやてくれアハくこまさん
 のこいよらてまけけをいけれど
 たんきえいあやうやうちのめと
 ちんさそくろアアやあれがうらうら
 ちやまらさくまきくまあてや
 ちんさそくろのまきけや
 ちんさのまきくまきせの
 いやうつらうつせバア
 ちんさそくろのまきけ
 ちんさのまきけ
 ちんさのまきけ



申のさき
 ちんさのまきけ
 ちんさのまきけ
 ちんさのまきけ

ドリヤアアアアアアアアア
 ケアアアアアアアアア
 申のさき
 ちんさのまきけ
 ちんさのまきけ
 ちんさのまきけ



申のさき
 ちんさのまきけ
 ちんさのまきけ
 ちんさのまきけ

五條坂のりのもも又とて
久しうらとてついでに
を夫のついでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに



五條坂のりのもも又とて
久しうらとてついでに
を夫のついでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに



五條坂のりのもも又とて
久しうらとてついでに
を夫のついでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに

作者口上
おどろきげん
山東京
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに
ついでに

五條坂のりのもも又とて
久しうらとてついでに
を夫のついでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに



五條坂のりのもも又とて
久しうらとてついでに
を夫のついでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに

五條坂のりのもも又とて
久しうらとてついでに
を夫のついでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに
ついでについでについでに



らんがら
十六文

開帳

らんがら
十六文

らんがら
十六文

らんがら
十六文

長髮女蛇柳後編中冊

手のつぎ... 蛇の口... 柳の葉... 蛇の舌... 蛇の目... 蛇の鼻... 蛇の耳... 蛇の足... 蛇の尾...



市... 蛇... 柳... 蛇の口... 蛇の舌... 蛇の目... 蛇の鼻... 蛇の耳... 蛇の足... 蛇の尾...

手のつぎ... 蛇の口... 柳の葉... 蛇の舌... 蛇の目... 蛇の鼻... 蛇の耳... 蛇の足... 蛇の尾...



京傳店... 白牡丹... 百九十四... 蛇の口... 蛇の舌... 蛇の目... 蛇の鼻... 蛇の耳... 蛇の足... 蛇の尾...



母屋
 ちやうふらふら
 とれいあらふら
 とゆががゆいけ
 ちやうふらふら
 もんむいけ
 ちやうふらふら

母の命をいかに
 世の命をいかに
 二人の命をいかに
 母の命をいかに
 世の命をいかに
 二人の命をいかに
 母の命をいかに
 世の命をいかに
 二人の命をいかに



母の命をいかに

母の命をいかに



母の命をいかに
 世の命をいかに
 二人の命をいかに
 母の命をいかに
 世の命をいかに
 二人の命をいかに

母の命をいかに
 世の命をいかに
 二人の命をいかに
 母の命をいかに
 世の命をいかに
 二人の命をいかに

布に名あふが考公と
いひごいさうのこころの
まてりあふがく
葉あてやあひたちど
こころのいればあふ
よろこびいもこ



らんかるよろこ
びのあふあな
しきりかあつあ
別のうこりあ
やくそくの目けんあれ
りんごこよりむくひの
まこりあふとんごくも
母あふあはあふあふあ
あふあふあふあふあ
あふあふあふあふあ
あふあふあふあふあ
あふあふあふあふあ

こがとあたりははせかうのつごの山あひ
三りちあふあちのいけいけあふあふあ
こもあふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ

あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ

あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ



あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ

あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ
あふあふあふあ



あまのこ
ちんご
おんまはれ
てさ
ささこ
藤井
おま
のひや

さかき
おまのこ
ちんご
おんまはれ
てさ
ささこ
藤井
おま
のひや
おまのこ
ちんご
おんまはれ
てさ
ささこ
藤井
おま
のひや



まご
アアあるさハ福井おせせぬかりりあ〜とあひら
さぬちのいかけちたびのささこささこささこささこ
まごのじとそれかたのひちちちちちちちちちちち
あつちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
日こりあのささこささこささこささこささこささこ
おせせぬたのちちちちちちちちちちちちちちちち
ていあひちちちちちちちちちちちちちちちちちち
まごのちちちちちちちちちちちちちちちちちちち
おごささこささこささこささこささこささこささこ
母のかさこささこささこ
のよあささこささこ
おまのこ
ちんご
おんまはれ
てさ
ささこ
藤井
おま
のひや

おまのこ
ちんご
おんまはれ
てさ
ささこ
藤井
おま
のひや
おまのこ
ちんご
おんまはれ
てさ
ささこ
藤井
おま
のひや



王のこゝろをさかして...
たいまつをともして...
あつちのこゝろをさかして...
あつちのこゝろをさかして...



おのりの...
おのりの...
おのりの...

おのりの...
おのりの...
おのりの...
おのりの...



おのりの...
おのりの...
おのりの...
おのりの...



母の命がけがあが
 さりたのあふが
 命とれたらけり
 もこれるる市
 あふさあさるる
 せとけけけ
 らふあさるるあさるる
 つれあさるるあさるる
 うらりんどうもゆり
 八つたきあさるる
 らふあさるるあさるる
 金ひあさるるあさるる
 らふあさるるあさるる

國貞画回 山東京傳作



竹の葉は青く、節は白く、風に揺れる姿が美しい。この竹は、山東京傳作の作品に描かれたものである。

○京山...
○山東京傳作...
○竹の葉は青く、節は白く、風に揺れる姿が美しい。この竹は、山東京傳作の作品に描かれたものである。



○山東京傳作...
○竹の葉は青く、節は白く、風に揺れる姿が美しい。この竹は、山東京傳作の作品に描かれたものである。

